

奥高だより

平成24年10月2日（火）

TEL : 01397-2-2354

FAX : 01397-2-2354

URL: <http://www.okushiri.hokkaido-c.ed.jp>E-mail: okushiri-z0@hokkaido-c.ed.jp

「本物」探し

校長 石戸谷 亮

今年度の校長のこだわりは、入学式や始業式で話したとおり「本物」であるが、この意味は実に難しい。そのとらえ方は対象のあり方で異なってくる。例1:このバッグは本物のブランドだ。例2:あいつのやる気は本物だ。(あいつは本気だ)。例3:流した涙は本物だ。例4:この美しさは本物だ。・・・

英和辞典で「本物」を調べてみても、genuine authentic real true natural などいくつが出てくるように、その対象のあり方が広義的か、抽象的か、感情的か、有形か、または各各否かで、様々である。

しかし私たちが「本物」と言う言葉を用いるときは、それがいずれの意味合いであっても必ず肯定的価値観に裏付けされており、4月の巻頭言で書いたとおり、それが人の納得する意志（心）の実現であれば「美」・「感動」・「気品」・「信頼」・「安心」などに表現されるのである。

生物の授業で命を語るうちに、私自身が「命」を感じたくなり、九州の南にある屋久島（今は世界遺産）に推定樹齢7200年の杉の木（縄文杉という）に会いに行ったことがある。10年ほど前のことである。ピラミッドも万里の長城も存在しない昔に、地上に落ちた一粒の種子が命を受け今に至る。その「命」とはどのようなものか。誰とも出会わない片道6時間の一人登山である。突然聞こえる獣の声に驚き、何度も怯える自分がある。感じたかった命とは別に、たかだか80年あるかないかに執着された小さな命が高まる鼓動にその存在を感じて、これもまた「命」と気づかされる。クマのように人を襲う動物は、この島にはないと自分に言い聞かせ、少し冷静さを取り戻しながら、ただ前に進むことに集中する。

登山開始から6時間後の午後3時30分 深い霧の中、疲れ果てながら木の階段を登り切ったとき、突然縄文杉が姿を現した。写真では何度も見たことがあったが、そのときの感想はと言えば、正に「美」や「感動」は勿論であるが「気品」や「信頼」、「安心」までも十分に含まれてしまい、最後は言葉の表現などどうでも良くなってしまった。まさに私が感じたかった「本物の「命」だ！」。

物質社会を前提としてimitationが溢れ、本物を追求することの価値観すら薄らいでいる現代に生き、そしてまた、これを語るに値する自分であるかどうかはわからないにせよ、本物を認識するための遺伝子はしっかりと内在され、そして確実に共鳴という形質発現することに気づかされ、嬉しい納得の瞬間だった。

人はそれぞれ、生きていく中で様々な本物の存在を知り、その共鳴度合いで生き方や考え方が形成されていく。時には偽物に惑わされることがあってもそこで諦めず、もう一度本物探しをスタートさせる。その積み重ねを、人生と言うのかもしれない。

平成24年度も半分が終わった。各学年ともそれぞれ各自が、残りの奥高校生活の中でどのような本物探しに挑戦し、そして発見し、それを将来にどう役立てていくのか、大いに期待したい。

前期終了 後期がスタート！

4月に新入生を迎えて、早半年が過ぎました。1年生もすっかり学校に慣れ、奥尻高の一員として様々な活動に取り組んでいます。前期は、学校祭や総合学習を始め、大きな行事が続き生徒にとってはあっという間であったように感じます。さて後期は、生徒自身が自分自身を見つめながら、これからの自分をしっかり考え、行動する時期となります。3年生は進路活動が本格的になってきます。2年生は学校生活最大の行事である見学旅行、1年生は宿泊研修が控えています。現在、各学年ともそれらに向けて一生懸命取り組んでいます。その活動を通して生徒が成長していくことを願っています。今後とも本校の活動に関して、ご理解とご協力をお願いします。

